

# 日風集

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第44号 2002年7月1日

## 道に迷い村に出会う

### —新宮村探訪記—

高知県立歴史民俗資料館運営協議会委員 津野 幸右



平成九年、人間ドックに川之江市「四国中央病院」へ行く途中、慣れない高速道路の運転で緊張していたのか「新宮インターチェンジ」へハンドルを切り新宮村(愛媛県宇摩郡)へ迷い込む。両側から山の迫ってくる谷川沿いの曲がりくねった狭い道路に手を焼いた。しかし、走りながら所々目に入ってくる山の中腹の斜面に点在する集落の風景には強く惹かれるものがあった。時々車を止めては風景に見入り、ゆつくり時間をかけて訪ねてみたいと思う。迷ったことを後悔するよりむしろ嬉しい気分がじんわりと湧いてくるのを感じた。二泊三日の短期入院中、道中眺めてきた集落のたたずまいを美味しいウイスキーを舐めるように思い浮かべては楽しんだ記憶がある。

民俗学をやる者にとっていいフィールドに出会えることは大変幸せなことである。新宮村は私にとって今や素晴らしい学校であり、村の老人たちは大事な先生である。未だ三回しか出掛けているが、行くたびにいい伝承に出会い、視野の広がる思いがする。道に迷って出会ったこの村、調査に入っても再々道に迷いはするが魅力満点である。

民俗学をライフワークとする者にとっては、現実の道路に迷うことも調査資料の整理・分析という思考の道に迷うのも避けては通れないことである。迷いを厭わず迷うてこそ出会えることも大事にしたい。

探訪記Ⅰ(平成十一年五月十五、十六日)



愛媛県宇摩郡新宮村嵯峨野

泉田部落、大窪部落日浦で「餅なし正月」の伝承を採集。一日に二つも「餅なし正月」の伝承に出会えたことは喜びを通り越して驚きであった。大窪では正月の神様への供物は餅ではなく大きな里芋と豆腐で作る雑煮とお神酒だという話も聞く。更に中上部落近の某家も餅を搗かないで正月をするという情報を得る。漁師が大きな魚群に出会った時の表現「魚影が濃い」に習い「芋影が濃い」と村の第一印象を記し、翌日の目的地別子山村(愛媛県宇摩郡)へ向かう。別子山村芋野では、正月の神様へ供える雑煮、元日に自分たちの食べる雑煮、元日以外の日に食べる雑煮と三種の雑煮を作る。前二者は餅を入れず里芋と豆腐。第三者は餅を入れるという。頭が混乱するがストライクゾーンを広くとり三つともストライク。検討は後日の楽しみ。

探訪記Ⅱ(平成十二年八月二十、二十三日)  
馬立部落突鐘で「餅なし正月」を採集。蔵六にもあるらしいという情報も得る。  
小字「柿の下」の雑貨屋で、正月のイタダキの中にヤツガシラ(里芋)を飾ることや昔は雑煮を里芋と豆腐だけで作っていたが最近餅も入れるようになったという話を聞く。

木風では木浦一族の先祖祭りに里芋を必ず供え、祭りの最後に皆で戴くという伝承を採集。更に正月の神様への雑煮は餅で作る里芋を入れないが、自分たちの食べるのやお釜さん、エベスさんなどに供える雑煮には餅と里芋を入れるという話(別子と逆)を聞く。

東之庄五部落(泉田・木風・鳩岡・亀尻・東北浦)の氏神「稻茎神社」のお祭りには大きなヤツガシラを五個供えること、正月の炊初めのお供えは一色餅をするものではないという話など二日間ノート十七ページ埋まる。

探訪記Ⅲ(平成十三年二月十日)

木風の木浦一族の先祖祭りについて調査するも前回以上の資料は得られず落胆。しかし氏神様の「祭典當家帳」に出会う。神饌として米・餅だけでなく雑穀・豆・里芋などを供える記録を発見。「洗米一升、麦五合、粟五合、大豆五合、餅三升大一對」「清酒二升、大根五本、人参十本、ゴボウ二十本、田芋大五個……」シャッターを切る手が震えた。

嵯峨野でもいい話を聞く。正月のお供えは一色餅をするものではない、白い餅を台にしてその上に必ず雑穀の餅を乗せて供える。炊初めのお供えも親戚間の贈答も一色餅はしてはならない。また正月のお供え、雑煮、若水迎え、炊初めに里芋は欠かせない等々。一色餅禁忌伝承や儀礼食としての里芋の影が次第に色濃くなってくる。朝五時出発、夜九時帰着の強行軍。

歴民の日(五月三日)

# 歴民クイズの陣



「歴民」の愛称で親しまれている高

知県立歴史民俗資料館は、昨年五月三日で、開館十周年を迎えました。今年度は、より県民の皆様にご利用いただくために、五月三日を「歴民の日」と称し入館無料日としました。また、三階総合展示室、二階民俗展示室の展示資料を見ながら問題に挑戦する「歴民クイズの陣」を開催しました。

ゴールデンウィークとも重なり、開館直後より、親子連れ、県外からの来館者が問題用紙を手に展示資料を凝視する姿が各階の展示室で見受けられました。特に、親子での挑戦が多く、お父さんが先頭に立ち問題に挑戦している家族、子どもの後を追っていく家族、みんなでケースの前で考え込んでいる家族、様々な家族の姿を見ることができました。館内のあちこちで「あった、あった」「この問題は答えは三番でー!」など、問題に挑戦している声が聞こえてきました。

全問回答者に配布するために用意し



入口看板



クイズに挑戦する参加者

た三〇〇部のオリジナル一筆箋は、午後一時二五分にはすべて配布が終了しました。オリジナル一筆箋に惜しくも間に合わなかった参加者は「パーフェクト賞を狙うしかないな」と悔しそうに解答题紙を提出していました。

クイズの陣に参加した方の声に、「いつもは各展示ケースを眺めて終わ

っていたが、今日は資料ひとつひとつを確認しながら見る事ができた」「親子ともども、郷土の歴史を勉強することができました」「展示内容が小学校低学年には難しいかな、と思つて来館しましたが、クイズの陣があり楽しく見る事ができました」など、楽しく参加できたことや次回を期待する声も多数ありました。

五月三日「歴民の日」は、企画展「金太郎さんと土佐のおもちゃ」、速報展「居徳人骨」も開催されており、八四六名の入館者がありました。そのうち、「クイズの陣」に参加された方は五二三名でした。全問正解者は三二六



▲オリジナル一筆箋

名、その中より抽選で二〇名の方にパーフェクト賞の図書券をお送りいたしました。パーフェクト賞当選者には、静岡県御殿場市から観光で来高された方やゴールデンウィークで帰省中の学生さんなども含まれていました。

開館十一年目を迎えた今年には新たな一歩を踏み出す年でもあります。「歴民の日」や「歴民クイズの陣」の企画・開催は歴史民俗資料館と県民の皆様との距離を縮めたのではないのでしょうか。今回の「歴民クイズの陣」から学んだことを活かして、参加型の企画展なども考えていきたいと思えます。

そして、「歴民」の愛称が県内どこでも聞かれる歴史民俗資料館に向けて頑張っていきます。(泉)

(次の頁に当日のクイズの問題を掲載しました。ご来館の上、ぜひ挑戦してみてください)

# ? 歴史クイズの陣 クイズ問題です。

ヒント……各時代を参考に展示室へいってみよう

## 【3階総合展示室】

- 常設展示室に展示されている国指定の貝塚の貝層は、高知県のどこの貝塚のものですか。  
①加曾利貝塚 ②大森貝塚 ③宿毛貝塚 ④中村貝塚
- 高知県の中で土偶の出土した市町村名と遺跡名はどこですか。(最後のケースに展示しています)  
①南国市田村遺跡群 ②宿毛市宿毛貝塚 ③土佐市居徳遺跡
- 稲の穂を摘み取るものをなんといいますか。  
①石斧 ②叩石 ③石包丁
- 高知県香美郡野市町の絵画銅剣には、動物7体が描かれていますが、それらは「シカ」「トリ」「カマキリ」ともう一つは何ですか。水に関係の深いものです。  
①タヌキ ②フナ ③カエル ④ブタ
- 古墳時代の国宝環頭大刀は高知県内のどこの神社に伝わったものですか。  
①高知市土佐神社 ②高知市潮江八幡宮 ③日高村小村神社
- 土佐の国司であった紀貫之が、京へ帰るまでのできごとをまとめたものを何といっていますか。  
①十六夜日記 ②土佐日記 ③三教指帰 ④蜻蛉日記
- 国の重要文化財に指定されている高知県高知市雪溪寺の毘沙門天像の作者はだれですか。  
①運慶 ②快慶 ③温慶
- 田村中世環溝屋敷模型の中にある、ひときわ大きい土壘は守護代の館のものです。土佐の守護代はだれですか。  
①足利氏 ②大内氏 ③赤松氏 ④細川氏
- 長宗我部元親奉納という黒い漆のお椀に描かれた昆虫は、チョウとハチの他にもうひとつあります。それは何ですか。  
①アリ ②セミ ③ムカデ ④フンコロガシ

- 高知県立歴史民俗資料館が建っているところの城跡は、何といっていますか。  
①安芸城跡 ②高知城跡 ③浦戸城跡 ④岡豊城跡
- 茶汲み人形的设计書が載っている本の名前は何ですか。  
①解体新書 ②万葉集古義 ③機巧図彙 ④船中八策
- 城下町の模型は何世紀の町並みを復元していますか。  
①17世紀後半 ②19世紀前半  
③18世紀後半 ④19世紀後半
- 武市瑞山獄中自画像に描かれている瑞山が右手にもっているものは何ですか。  
①刀 ②うちわ ③手ぬぐい ④ピストル
- 坂本龍馬と中岡慎太郎が暗殺されたとき、龍馬の血が付着したものは何ですか。  
①近江屋の掛軸 ②寺田屋の障子 ③池田屋の襖  
④美濃屋の畳
- 自由民権運動の理論的な指導書「民権自由論」を書いた人はだれですか。  
①中江兆民 ②板垣退助 ③植木枝盛 ④片岡健吉
- 「野地騒動絵馬」に描かれている民史両党の対立は、現在のどこの市町村で起きた事件ですか。  
①高知市 ②春野町 ③佐川町 ④日高村
- 炭の火の温度を上げるために、風を起こす道具を何といっていますか。  
①ホクボ ②ふいご ③フネ ④金床
- 展示されている大漁旗に描かれていないものがひとつあります。それは何ですか。  
①えびす・大黒様 ②魚 ③宝船 ④サンゴ
- 珊瑚をとる船を「ゴトイキ」というのはどうしてでしょうか。  
①船がゴトゴトうるさいから ②ゴトゴト珊瑚がとれるように  
③五島列島まで珊瑚漁に行くから
- 木を山から運び出すとき、木をすべり台のように組んでその上をすべり落とすしかけは。  
①イカダ ②修羅 ③木馬 ④堰出し

(回答は7P)

## 土佐の民具 7

坂本正夫

土佐では水瓶をハンドと呼んでいます。一般的には写真1のような広口のをいいますが、県中部の山間部では写真2のような狭口のものもハンドと呼んでいます。

土佐以外では愛知県でハンドまたはハンドガメといい、和歌山県伊都郡でもハンドは水瓶のことですが、手水鉢もハンドと呼ばれています。九州ではハンドウまたはハンスと呼ばれています。

ハンドは水をためておく道具で、井戸を使っていた昔は家々の必需品でした。ハンドは水分を通さず塩分や酸にも強いので、味噌の貯蔵、梅漬、穀物貯蔵、或いは焼酎入れ、というようにその用途は多方面にわたっていました。

ところで商品を買うとき、ついうっかりして大損をすることがあります。これを「ハンドを買った」とか、「ハンド買いになった」と表現していましたが、これは重いもの(ハンド)を背負わされた、という意味だといわれています。



写真1



写真2

# 速報展「居徳人骨―殺傷痕・損傷痕を有する人骨の出土―」

展示解説から

高知県立埋蔵文化財センター 曾我 貴行

居徳遺跡群は土佐市高岡町の市街地の北、清滝寺の麓にあります。一九九六年に自動車道工事のための確認調査で発見されて一九九七～九八年に二万五千平方メートルを発掘調査しました。周囲の地形は東に仁淀川、北に山、遺跡の範囲は東西四〇〇メートル、南北七〇〇メートル、縄文時代後期～室町時代にかけての複合遺跡です。現在は耕作地となっている場所ですが、戦中戦後の時期に開墾されたと地元の方からお話をききましたので、集落跡もその時に消失したと考えられます。低地の部分が遺跡として残っており、地下水位が高く、湿地であり、木製品、獣骨、ドンダグリの実、漆製品が良好な状態で残っていました。遺物は五〇万点以上、一五トン出土しています。主な成果は東北地方の土器である大洞式土器、木胎漆器、現時点で日本最古の木製鎌、日本で最大級の土偶、中村市中筋川流域の祭祀跡に匹敵する古墳時代の祭祀跡、そして今回の人骨が出土したことです。

では人骨について発見のいきさつからお話しします。縄文時代晩期の「ゴミ捨て場」から獣骨二九〇〇点を確認

しており、専門家の協力を得ようというところで、奈良文化財研究所の松井章先生の元へ獣骨を送りました。今年一月の受け渡しの点検中に人骨が混じっていることがわかりましたが、松井先生はよくあることだとおっしゃいました。そのまま時間が過ぎて、突然二月二五日に松井先生から電話があり、鎌の貫通した人骨があるとのことでした。この時松井先生は戦争という認識を持っておられたようで、私自身重大な仕事を担当させてもらっているのだと感じました。そしてあつという間に三月一九日の記者発表となり、発表後は大変な反響を呼ぶこととなりました。県民の皆様がいち早く見ていただこうということですので今回の速報展開催の運びとなりました。

人骨は4D区、縄文時代晩期後半のゴミ捨て場から獣骨に混じって出土しました。ゴミ捨て場からの出土遺物の中で一番多かったのは土器、石器、獣骨で、総数六万点です。ここからは土偶も出土しました。人骨は合計一五点で、内訳は大腿骨九点、脛骨二点、上腕骨一点、頭蓋骨破片二点、基節骨

(足の指の付け根の骨) 一点です。手足の骨の占める割合が高く、全ての骨に関節部分がありません。九州大学の中橋孝博教授の鑑定によりますと、九点の大腿骨は同一人物のものは含まれていないとのことですから、居徳遺跡群で九人以上が犠牲になっています。

調査時、私は獣骨と思って写真撮影をしていたのですが、偶然に一枚だけ人骨の出土状況のわかる写真を撮って

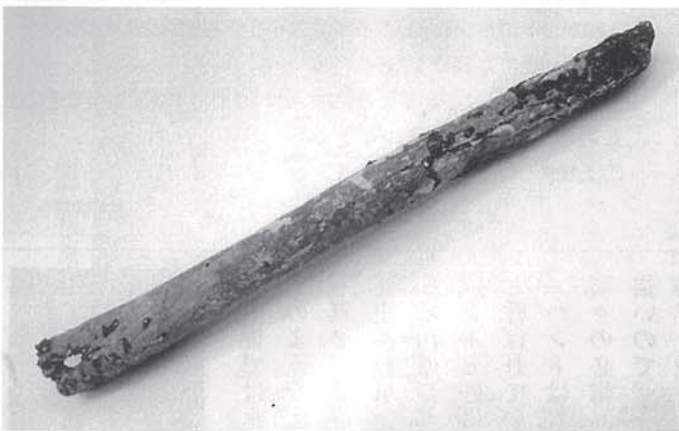


図1 貫通痕のある大腿骨 (奈良文化財研究所提供)

いました。配布資料には人骨の出土地点を平面図で記してありますが、それぞれの人骨が離れて出土しているバラバラであったということがわかるかと思えます。

図1は女性の左の大腿骨で、膝に近いところに骨鎌が貫通した痕と考えられる孔があいています(図2)。鎌の

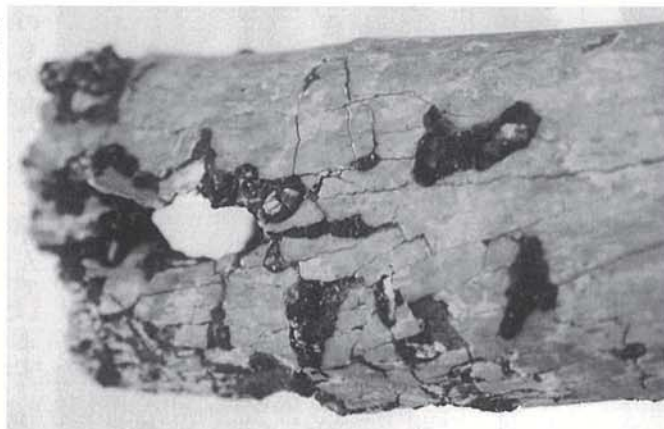


図2 貫通痕のある大腿骨拡大 (奈良文化財研究所提供)

貫通痕はかまぼこ型になっていて、裏側は鎌が貫通した際にはじけ飛んだような形跡があります。骨鎌は殺傷能力が高いものです。参考までに現代の弓道で使用する矢は一〇センチ以内の距離ならば骨を貫くことが可能だそうですが、反対側には刃物で切られたような傷痕



図3 貫通痕のある大腿骨切り傷 (奈良文化財研究所提供)

があります(図3)。厚みの薄い刃物で一気に傷つけようとしたようですが、一刀両断できずに骨のもっている修復力で結合して残ったものです。別の人骨四点にはノミ状の刺突痕がみとめられます(図4)。骨に対して直角的に打ち込んだような傷です。連続して刺突痕はみとめられますが、ほぼ同じ所に陸続きのようなところがあります。ノコギリのように挽き切りをしたならばこのような形状にはなりません。陸続きのところは刃こぼれの痕跡と考えられます。このような強度をもった道具は石器というよりは金属製の刃物と考えられます。同様の傷はイノシシの

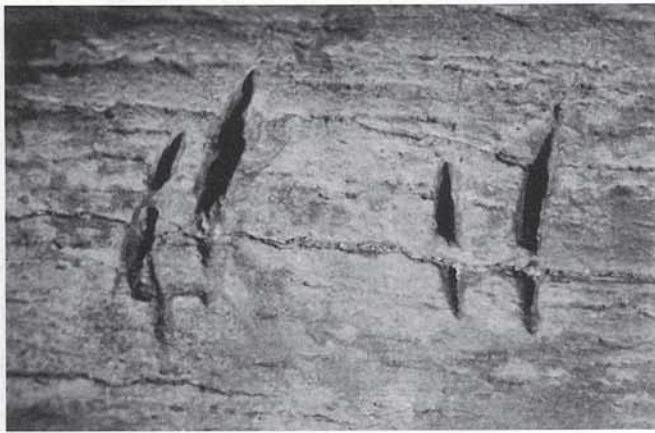


図4 ノミ状利器による刺突痕 (奈良文化財研究所提供)

骨にもみとめられますが、肉を切り取るために筋肉の付け根部分を切断するために端部に集中しています。切断痕のある人骨の端には平滑な面が見えています。他に鈍く大きい傷のついた人骨もあります。この傷をつけた道具については未解明です。

人骨についてまとめてみますと、第一に出土人骨の部位が限られていることです。大腿骨が多く、脊椎骨が一点もありません。第二に一五点の人骨のうち、六点到殺傷痕・損傷痕がついていることです。こんなに多くの傷を受けた人骨の出土例は縄文時代にはなかったことです。第三に最古の金属器使

用の可能性があることです。

こうしたことから松井先生は集団内部の争いの結果というより、集団を超えた生存を懸けた深刻な対立があり、それを暴力的に解決しようとした、とお考えです。先生は戦争という語句はお使いになりませんでした、縄文時代の戦争の有無について一石を投じることとなりました。

私は、居徳人骨の主は人から矢で射られるという事実があったということをやまず冷静に受け止めたいと思います。そして人骨がどういう時代背景のもとにあったのかを考える必要があります。この時期は縄文時代の最終末段階で、次には新しい時代が控えています。稲作、土地をめぐる争いから生じた戦争、金属器の使用、弥生土器、これらは弥生時代を特徴づける各要素ですが、これらはある時期に一齐に出現したのではなく、個別に日本列島に伝わっていた可能性を考慮する必要があるのではないかと思います。縄文文化と弥生文化が対面する場面があったのではないのでしょうか。時代と時代の遭遇とでもい

ましようか。新しい波が友好的に入ってきたこともあったでしょうし、新しい波の余波に飲み込まれてしまった日本列島人もいくらかいたのではないで



速報展「居徳人骨」

ようか。犠牲になった居徳の人達はそういう尊い犠牲者だったのではないのでしょうか。学問的には不適切かもしれませんが、血の通った同じ人間として激動の時代を生きた証と受け止めたいと思います。

松井先生は高知での発見が歴史教科書を書き替えるかもしれないとおっしゃっています。郷土の歴史が日本の歴史を構成しているということを感じてもらえればと思います。人骨については年代測定、可能であればDNA鑑定を今後行う予定です。並行して土器・石器の整理分析を進めていきます。人骨の年代や時代背景に言及できる成果があがるのではないかと考えています。

## 考古

### 展示資料の複製と検認

本川村越裏門地蔵堂の鰐口  
(県指定文化財)



複製

実物資料

開館時より寄託資料として常設展示していた本川村越裏門地蔵堂の鰐口は、「本川村新郷土館」の開館にあたり展示することとなり、平成十二年度に返却しました。この鰐口に刻された銘文は、四国遍路の成立時期を知ることのできる唯一の資料です。館では、土佐の遍路を語る上で極めて重要な資料という観点から、複製品を製作委託し展示することとしました。製作は、平成十三年度に委託しました。複製の製作過程で県外で検認を行い、実物資料と微妙に異なっている所は細部にわたり修正させ完成しました。

(岡本)

## 歴史

### 寺石家資料整理最前線

「寺石正路関係資料目録Ⅰ」完成!

「土佐郷土史の父」と称される寺石正路の関係資料が高知県に寄贈されたのは昭和六十一年のことでした。以来、歴史館において整理作業が行われています。一口に整理作業といっても、一般的な図書から専門書、各方面の研究者から贈呈された貴重本・抜刷、旅行日記やスケッチ、研究論文の草稿など多岐にわたるため、適切な分類項目を作り上げるまでは困難の連続でした。この整理作業の中で、絵葉書などの整理が完了しましたので、このたび目録として刊行することになりました。

博物館の資料は、収蔵庫に入ればそれで終わりというものではありません。本目録や、これから刊行される各分野の目録が、資料と県民の皆様を結ぶ架け橋になることを願います。

※目録御希望の方は一冊500円で、歴史受付にて頒布しています。

「寺石正路関係資料目録Ⅰ」  
歴史分野絵葉書・封書編①表紙



資料整理風景

## 民俗

### 映像記録「えんこう祭り」

県内のお祭りや民俗芸能を映像記録に残そうと、プロの業者に委託して年に一カ所ずつ撮影しています。今年も、6月第一土曜日に行なわれたえんこう祭りを記録しました。「えんこう」とは、いわゆる河童のことです。水難よけに川の神を祭る習俗は各地にあります。水の妖怪をお祭りするところがユニークです。



葛蒲でえんこうの祠を作る子どもたち



えんこう様の祠を拝む

現在、えんこう祭りは、南国市浜改田、前浜下島、久枝の13カ所で行なわれています。2台のカメラで撮影してもらったのですが、それぞれの地区が同時進行なのでカメラマンは息もつかない忙しさでした。また、情報を寄せていただいたのに、時間が足りずに伺えなかった所もありました。この映像は編集して来年開催予定の「異界万華鏡」展で上映する予定です。

(梅野)

# ふくろう ギャラリー

ぼくたちわたしたちが  
描いたよ！郷土玩具！！

平成14.7.27.土～8.25.日

ふくろうギャラリーは、二つの企画展から生まれました。「ふるさと土佐のおもちゃとおひなさま」と「金太郎さんと土佐のおもちゃ ハツケヨイ！郷土玩具」：ちよつと長い題名のこれらの企画展は、高知市にお住まいの山崎茂さんの郷土玩具コレクションを紹介するものでした。どちらも八百点以上の展示品とあって、「すごいねえ！」と感嘆の声が多く聞かれました。とはいえ、展示しているのは可愛らしい人形たち：訪れたお客様は、みなさんニコニコ笑顔でご覧になっているのが印象的でした。

こどもたちに展示を楽しんでもらうために、ふくろうクイズと郷土玩具スケッチのワークシート「さがし



ワークシートに挑戦する芥良小学校のみなさん 2002年5月23日

てみよう！かいてみよう！！」を用意したところ、「おひなさま」展で六百二十枚の絵が集まりました。これらのスケッチは、連続ならではの企画として、「金太郎」展で展示しました。引き続き「金太郎」展でも絵を描いてもらい、こちらは今年の夏休みに展示することになりました。

こどもたちの伸び伸びとした絵は、見る人の心を和ませてくれます。おつと、大人も味のある絵を寄せてくれますから見逃さないでください。女だるまさんが私を描いて：と言っているみたいだから描きました」など、絵についているコメントも楽しいですよ。

この夏休みは「ふくろうギャラリー」へ、小さな画伯たちの絵をぜひ見に来てくださいね。  
(中村)

## 今日は一日学芸員

高知市立一宮中学校二年生

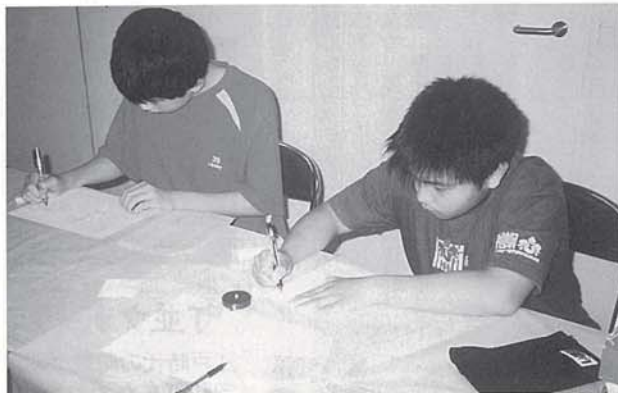


高知市立一宮中学校では、二年生が様々な職場を訪問し、職業人として働くことの大切さを身をもって体験する「職場体験学習」を平成十二年度より行っています。歴史民俗資料館には初年度より、三年続けての来館です。

今年度は、五月二十一日から二十二日の二日間、二年生の二名・田中亮君、大和翔太君が学芸員としてやってきました。初日は資料館の概要、県内の文化財、施設見学を行った後、受付・監視の業務の体験を行いました。初めての接客体験で緊張したみたいですが、平日だったので来館者も少なめで、無事に終了することができました。

二日目は、資料の取り扱いやカード作成など学芸的な業務を体験しました。二人とも手先が器用で巻子の取り扱いが職員顔負けです。法量の計測なども二人で協力し、実測を行うことができました。

短い期間でしたが、来館者が気持ち



資料カードを作成

よく観覧できる心配りや、実物資料に触れたことで資料館の業務について理解ができたのではないかと思います。そして、今回の学習が文化財に対する再認識につながることを期待しています。  
(泉)

### 「歴史」クイズの陣回答

- 1 ③、 2 ③、 3 ③、 4 ③、 5 ③、 6 ②、 7 ③、 8 ④、 9 ③、 10 ④、
- 11 ③、 12 ②、 13 ②、 14 ①、 15 ③、 16 ③、 17 ②、 18 ②、 19 ③、 20 ②



### 新刊

高知県立歴史民俗資料館

## 研究紀要 第11号

頒価 400円  
(送料240円)

#### 目次

葉山村三嶋神社所蔵(旧春日神社所蔵)の古鏡・付幡多郡大正町打井川の古鏡 岡本桂典  
 試論 長宗我部元親宛給文書に関する若干の考察 野本 亮  
 一永禄期~天正後期を中心にして一  
 平成13年度寄贈資料から 一安喜郡野根郷真砂瀬村・榎本家所蔵の納経帳について 岡本桂典・泉誠司  
 平成13年度寄贈資料から 一安喜郡野根郷真砂瀬村・榎本家所蔵の納経帳 原田英祐  
 梅野光興

歴史民俗資料館と博物館の間で(上)

月・日	主な出来事
4 / 7	企画展「ふるさと土佐のおもちゃとおひなさま」閉幕
4 / 19	速報展「居徳人骨」開始
4 / 20	講演会 松井 章氏
4 / 21	「居徳人骨」展示室トーク
4 / 26	企画展「金太郎さんと土佐のおもちゃ」開幕
4 / 27	「金太郎」展示室トーク
5 / 3	歴史の日(入館料無料)。歴史クイズの陣開催 「居徳人骨」展示室トーク
5 / 4	「金太郎」展示室トーク
5 / 11	講演会 畑野栄三氏
5 / 18	土佐民話の家⑨
5 / 19	速報展「居徳人骨」終了
5 / 25	史跡めぐり(香川県善通寺市)
6 / 30	「金太郎」展示終了

#### 【ひとこと】

少しでも親しみやすい「岡豊風日」にと、新コーナーを作ってみました。(梅野)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第44号  
 平成十四年七月一日  
 編集・発行 高知県立歴史民俗資料館  
 〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
 TEL 088-862-2211  
 FAX 088-862-2110  
 開館時間 午前9時~午後5時  
 (入館は午後4時30分まで)  
 休館日 毎週月曜日(祝日及び振替休日)  
 にあたる場合は翌日) 12月28日  
 ~1月4日、臨時休館日あり  
 入館料 通常期(常設展)大人(18歳以上) 400円・団体(20人以上) 300円  
 無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿  
 手帳所持者・療育手帳・身体障害者  
 手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・  
 被爆者健康手帳所持者とその介護  
 者(1名)  
 印刷・(株)飛鳥

http://www2.net-kochi.gr.jp/~kenbunka/rekimin/  
E-mail:rekimin@tosa.net-kochi.gr.jp

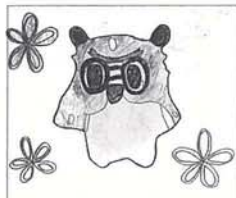
## 平成14年7月~9月の催し物

### 【ミニ企画展】

## ふくろぎャラリー

### ぼくたちわたしたちが描いたよ! 郷土玩具!!

7月27日(土)~8月25日(日)



「金太郎さんと土佐のおもちゃ」展期間中に子どもたちをはじめ来館者の方々に描いていただいた絵を展示します。



### 次回企画展

「歴史と美術」

10月4日(金)~12月1日(日)

収蔵資料と県内の美術工芸品を展示

### 【ワクワクワーク】

※電話かEメールでお申し込み下さい

## 土佐民話の家⑩ 七夕の話

7月6日(土) 14:00~15:30

土佐民話の会・市原麟一郎さんの紙芝居で七夕の昔話を聞いて、笹に短冊を飾ります。



## 水てっぽうをつくろう

8月3日(土) 10:00~12:00 / 8月17日(土) 10:00~12:00



昨年の人気企画が再登場。自分で作った水てっぽう。果たしてうまく飛ぶかな?



### 【史跡めぐり】

※専用の申込書をご請求下さい

## 檮原町吉祥寺の孝山祭 9月29日(日)



非業の死を遂げた元親の三男・津野親忠(法号孝山)の霊を慰める孝山祭。三番叟や念仏行事を見学します。また、津野氏ゆかりの古戦場や姫野々城跡周辺も探訪する予定です。

(申し込みめきり 9月3日)

## 町並ウォッチング⑦愛媛県宇和町 10月5日(土)

江戸時代の町並や明治・大正時代に建てられた学校が残る文化の里、宇和町をたずねます。講師は溝淵博彦先生(県文化財保護審議会委員)です。(申し込みめきり 9月14日)